

2018年10月29日

第64回日本水環境学会セミナーのご案内  
「水環境における環境DNAを用いた生物モニタリング」

湖沼や河川などで採取した水の中に浮遊する環境DNAの分析技術の発展により、生物のモニタリング方法が大きく変わり始めています。環境省の「生物多様性総合評価報告書」では、陸域における生物多様性が1950年代後半から大きく損なわれていることが報告されています。生物多様性を効率的に保全するためには、河川管理者は環境を適切に監視することが重要となってきます。どのようにアプローチすれば、環境DNA技術が、このような環境監視に有用な技術となりうるのか。本セミナーでは、環境DNAを用いた生物モニタリングから、種特異的な環境DNA検出によるマクロ生物の生態調査、環境DNAを用いた陸水生態系種構成と遺伝的多様性の包括的解明手法の確立と実践、魚類環境DNAメタバーコーディング法による多様性評価まで、各分野の専門家をお招きし、最新情報および今後の展望についてご講演いただきます。

主催：(公社)日本水環境学会

期日：2019年1月25日(金) 9:55~16:40

場所：自動車会館大会議室(東京都千代田区九段南)

<http://www.jidosya-kaikan.com/map.html>

参加費(税込)：会員7,000円、学生会員3,000円、非会員15,000円、学生非会員4,000円

定員：先着130名

申し込み方法：FAX、E-mail、参加申込書またはハガキに

- ① 参加者氏名(フリガナ)
- ② 会員・非会員の別
- ③ 会員の場合は会員番号
- ④ 連絡先(所属団体名、住所および電話番号、E-mailアドレス)

をご記入の上、下記宛てお申し込みください

また、参加費を1月17日までにお振り込みいただくか、希望の支払い方法を連絡ください。

入金を確認後、参加証(ハガキ)をお送りいたします。

参加費振込先：三菱UFJ銀行 市ヶ谷支店(普通) 0754950

(公社)日本水環境学会セミナー口

シャ)ニホンミズカンキョウガッカイセミナーグチ

セミナー参加証明書の発行について

継続技術者教育(CPD)の観点から、要望に基づきセミナー参加証明書を発行します。参加証明書の発行を希望される方は当日受付においてその旨を申し出てください。

申し込み・問い合わせ先：

(公社)日本水環境学会 セミナー係

(E-mail: [togawa@jswe.or.jp](mailto:togawa@jswe.or.jp))

〒135-0006 東京都江東区常磐2-9-7 グリーンプラザ深川常磐201号

TEL. 03-3632-5351 FAX. 03-3632-5352

ホームページURL: <http://www.jswe.or.jp/event/seminars/seminar.html>

第 64 回日本水環境学会セミナー  
「水環境における環境 DNA を用いた生物モニタリング」

プログラム

9：20－9：55 受付

9：55－10：00 開会の挨拶

10：00－11：00 ビッグデータで進化する川づくりと環境 DNA

土木研究所水環境研究グループ 上席研究員 中村 圭吾

ビッグデータの活用等により、川づくりは大きく進化しています。そのなかで生物データは圧倒的に不足しており、河川環境管理の課題となっています。環境 DNA の登場は、生物ビッグデータ利用の扉を開くものであり、河川管理への本格的活用に期待がかかっています。

11：10－12：10 種特異的な環境 DNA 検出による希少種や外来種の分布状況調査

神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授 源 利文

種特異的な PCR 系を用いて環境 DNA サンプルから特定の種の DNA を検出する手法およびそれを利用した希少種や外来種の分布調査への応用例についてご講演いただきます。

～昼休み～

13：10－14：10 魚類環境 DNA メタバーコーディング法による多様性評価：技術開発と応用

千葉県立中央博物館 環境研究部長 宮 正樹

多種多様な魚類の環境 DNA をまとめて同時並列的に分析する手法「環境 DNA メタバーコーディング」の技術開発とその応用に関して概説していただきます。

14：20－15：20 環境 DNA を用いた河川生物モニタリング

山口大学大学院理工学研究科 准教授 赤松 良久

環境 DNA 技術を用いた河川内の魚類量推定やアユの産卵場の把握などについてご紹介いただきます。

15：30－16：30 大規模生態系データは何をもたらすか：環境 DNA 観測の将来

東北大学大学院生命科学研究科 教授 近藤 倫生

環境 DNA 技術を利用した生態系観測の可能性は、その省力性に由来する多地点化や高頻度化にある。本講演では環境 DNA 観測がもたらす大規模データとそれがもたらすかもしれない高度生態情報社会について展望をご紹介します。

16：30－16：40 閉会の挨拶

\*講師の都合等で内容や時間等一部変更となる場合があります。